



【実りと活力創造学

部】

事業実施報告書【有害鳥獣駆除の後継者育成プログラム】

- 日 時:令和5年7月29日(土) 14:00~17:00
- 場 所:川戸特産品加工施設 千代田地域の山(川戸)
- 参加人数:7名
- 内 容:

①講座のねらい

野生鳥獣による農作物の被害は年々増加しており、農家の生産意欲低下や収入源をもたらしている。きたひろろ学び塾ではこれらの対策を実施するための基本的な知識を習得するための講座を開催し一人一人が鳥獣対策に向き合いできることからやってみようという気持ちを芽生えさせ地域で活躍できる担い手を育成し、持続可能で住民が誇れる地域を作り、関係人口増を図る。

②講座の内容

【川戸特産品加工施設】

○イントロダクション 農林課 上田翔「令和5年度学び塾構想」

令和5年度の学び塾で開催する講義内容(全4回)の説明をプロジェクターを使用し説明。

○第一部 講師 ㈱BO-GA 市川哲生氏「山で遊ぶってこういうこと」

講師自身が山で遊ぶ上で何に注目して山に入るかを説明。自身が研究していき生物の話や北広島町でセンサーカメラにより撮影された生物の動向やご自身で撮りためた貴重な映像を元に生物の魅力を説明。

また学び塾、全4回のプログラムの内容を参加者が体験して楽しめる内容であることを説明。

【千代田地域の山 川戸】

○第二部 講師 農事組合法人 せんごくの里 田村誠氏「山歩き」

サブ講師 ㈱BO-GA 市川哲生氏

実際に川戸の山を参加者と歩いた。講師自身農業を生業としており農作物への被害がきっかけで獣害と向き合うようになった。山の中では狩猟者目線で、獣道や獣が残した痕跡を説明していただいた。また川戸の山が昔と今でどのような変化をし今の形に至ったのかなど歴史の移り変わりなども説明。

市川氏は自信が山歩きをする際に注視しているポイントを現場で実際に再現。参加者も一緒になり生物を探したり山の断面図を見て地質などの説明をいただいた。

【コメント】(記載内容そのまま転記)

地域ぐるみでの対策・勉強会。わなの有効なかけ方について教わりたい。数々の知識(実践につながるもの)を習得したいと思います。バッファゾーンの作り方・補助制度・取り組み方等について。モデル地区の視察等。手軽にできる・女性や高齢者でもできることを学び地域の方と実践していきたい。

【感想】(記載内容そのまま転記)

山を楽しむ。良い方法ですね。植物・小動物の紹介は山遊びに最適かと思い、今後使わせてもらおうかと思っています。次回は若い人への声かけをしていく。準備が大変だったと思いますが、もっと若い世代への呼びかけができないかと思

いました。「山に入る」「楽しむ」という視点は良いですね。告知の仕方に工夫が必要。せっかくだからもう少し多くの人に参加して欲しい。初めて参加させていただき、山に対し認識不足があまりにも多いことを知りました。有害鳥獣対策は永遠の課題で「どんなことを仕掛けても無理」と思っていたのですが、まずは学んでできることから挑戦していきたいと思いました。

【講座実施における課題】

- ・2回目「くくり罠をかけてみよう」(9月) 集客が弱い。ターゲットを明確にし参加してほしい人材に直接声をかける。第2回は参加人数に限度(30人程度)を設ける。
- ・3回目「地域づくりのタネを探す」(11月ごろ) 千代田祭りに合わせて開催する。第2回と3回は連動型の講義になるため2回の講義で参加者の心を掴み3回への参加を促す。また祭りの参加者も来ることが想定されるので講義参加者以外にも楽しそうなことしているな！と思わせる戦略を考案する。

【写真】

